〔会員近著紹介〕篠原義彦著

『森鷗外の世界』

岡林清水

このたび篠原義彦氏の「森鷗外の世界」が刊行された。篠原氏は高知大学の卒業生で、在学中から「源氏物語」をとりあげ、「源氏物語」研究でいままでにかなりの実績をあげているが、まだ著書は出していなかったので、「森鷗外の世界」が処女出版ということになる。

その間のことを篠原氏は、本書の〝あとがき〟で次のように述べている。「…卒業論文に源氏物語を選んだ私は、たまさかに鷗外に敬意の念を抱くことはあっても、その門を叩こうとはしなかった。…新設医科大学に勤めることになった私は、大分手垢も付き愛着もできた法令集を捨て、再び教壇に立つことになったが、なぜか、かつて抱いていた王朝文学に対する情熱は薄らいでいた。…鷗外の「興津弥五右衛門の遺書」を読んだ私は、大正十一年七月六日の鷗外の遺言に辿り着いて、思わず快哉を叫んだ。…鷗外全集三十八巻を田舎町の古書店に探したのは昭和五十四年の夏も終りのころだった。」

鷗外森林太郎の魅力にひきつけられ、〝死に臨んでの簡潔にして雄渾な言辞の裏に秘められた鷗外その人の苦渋の生〟を追尋しはじめたのは、篠原氏が、新設の高知医科大学の一般教育「文学」を担当するようになってからのことであるが、本書はまさに、篠原氏の高知医科大学における教育・研究の結晶というべきものである。

「森鷗外の世界」は、〝鷗外の苦渋と忿懣〟・〝鷗外における「国家」の問題〟・〝臨時脚気病調査会と文芸委員会〟・〝「キタ・セクスアリス」発禁問題をめぐって〟・〝軍医総監と「プアスチエス」と「最後の一句」〟・〝明治四十三年後半の政治的状況と「沈黙の塔」〟・〝「食堂」と大逆事件〟の七篇で構築されているが、この描き方がなかなか魅力的である。

明治四十年十一月から明治四十三年の末に至る三年間の森鷗外を基軸にして、鷗外の〝生の軌跡〟を検証し、遒麗の文章で叙述しているのだが、その間に、かつての高校管理主事時代の経験を生かして、法令集などの資料を駆使して鷗外の人生を資料的に充足させている点は、本書の魅力を倍加させているといえよう。

官事と文事・軍医と文学者という鷗外の二つの世界を、篠原氏はその生の軌跡のなかで描いたのだが、篠原氏自身にもその二つの面があると思われる。源氏物語と森鷗外・官事と文事・律儀と解放という二つの対立のなかに生きる篠原氏には鷗外と一つになり得るものがあったと思われる。鷗外へ向かってのまっしぐらの努力精進のなかで、ハルトマンにもふれ「堺事件」にも言及して、鷗外の全業績に眼を向けている。

いわば「森鷗外の世界」は、津和野のつわぶきの如く、大きくふくらみ、古雅にしてみずみずしさを感じさせる書となっているといえよう。今後は、比較的手薄の、鷗外の美学に関する飜訳の業績ならびに歴史小説の背景

の追尋に力をそそぐと共に、古典文学への回帰も心がけてもらい度いものである。

（高知大学教授）

（昭和五十八年二月二十日発行　桜楓社　二二八頁　三、八〇〇円）

彙報

受贈図書雑誌目録（昭57・6～58・5）

愛知淑徳大学国語国文　第六号
愛文（愛媛大学）　第一八号
青須我波良（帝塚山短期大学）　第二四～二五号
青山語文　第一三号
跡見学園短期大学紀要　第一八集
　別冊第二集
江古田文学　復刊創刊号～第三号
愛媛国文研究　第三二号
愛媛国文と教育　第一三号
愛媛大学法文学部論集文学科篇　第一五号
大阪樟蔭女子大学論集　第二〇号
大谷女子大国文　第一三号
大妻国文　第一三号
大妻女子大学文学部紀要　第一四号
岡大国文論稿　第一〇号
帯広大谷短期大学紀要（第一分冊）
　第一九～二〇号
海南史学（高知海南史学会）　第二〇号
香川大学国文研究　第七号
学苑（昭和女子大学）　五八年一月
学芸紀要（人文科学）（徳島大学）第三二巻
学習院大学国語国文学会誌　第二六号
学術研究（国語国文学編）（早稲田大学）
　第三〇号
学大国文（大阪教育大学）　第二六号
香椎潟（福岡女子大学）　第二七号
活水日文　第五～八号
活水論文集　第二五集
金沢大学教養部論集人文科学篇
　第一九～二〇号
漢学研究（日本大学）　第二〇号
漢文学会々報（国学院大学）　第二八号
岐阜女子大学紀要　第一一号
岐阜大学国語国文学　第一六号
紀要（中央大学文学部）文学科五一～五二号
京都教育大学国文学会誌　第一七号
金城国文　第五九号
群女国文　第九～一一号
群馬県立女子大学紀要国文学国語学篇第二号
群馬県立女子大学国文学研究　第二号
慶応義塾国文学研究会報　第三四～三七号
研究論集（開成学園）　第一〇～一一号
言語学論叢（筑波大学）　第一号
言語文化（一橋大学）　第一九号
高大国語教育　第三〇号
甲南国文（甲南女子大学）　第二九～三〇号
甲南大学紀要文学篇　第四八号
高野山大学国語国文　第八号
語学と文学（群馬大学）　第二一号
国語学研究（東北大学）　第二二号
国語学研究と資料（早稲田大学）　第六号
国語教育研究（広島大学）　第二七号